

同窓会 たより



千葉大学大学院
看護学研究科・看護学部同窓会

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 TEL 043-222-7171
ホームページ <http://www.n.chiba-u.jp/dousoukai/index.html>

ご挨拶

同窓会会長 岡田 忍 (3期)

もう4月になるというのに、なかなか厚手のコートが手放せない、季節が逆戻りしたかのような寒さの中で今、たよりの原稿を書いています。会員の皆様が、たよりを手にされる頃は、きっと初夏のさわやかな陽光がまぶしい季節になっていることを願っています。この冬は例年になく寒さが厳しく、千葉でも何回も降雪をみましたが、同窓会会員の皆様におかれましては、お変わりありませんでしょうか。

昨年度は、皆様のご協力と名簿委員会のご尽力で、無事に名簿を発行することができました。先日気がついたのですが、最後のページには都道府県別の同窓生数が掲載されていました。ほとんどの都道府県、さらには海外にも同窓生がおり、改めて同窓生の活動の場の広さを実感しました。次の発行は、2012年の予定ですが、名簿の作成には、毎年会員の皆様に個人票を返送していただくことが不可欠ですので、今年もご協力をよろしくお願いいたします。

今や同窓生の数は2,500名を超え、入会制度の変更や、ホームページの開設など、ここ数年間同窓会の活動が拡大する一方で、独法化や大型の外部資金獲得に伴って教員の業務量は増加し、同

窓会活動のための時間を捻出するのが厳しい状況になっております。学部との連携・協力を密にし、同窓会活動が効率的に行えるようさらなる見直しを計る時期にあることを痛感しています。

看護学部は底力宣言「つなぐ看護学の知・絆・礎」を発信しました。千葉大学看護学部が「知」を産出し、看護学の「礎」となる存在であるとするならば、同窓会は、千葉大学看護学部・看護学研究科を卒業・修了し、同じ「知」と「礎」を共有するという「絆」の象徴であり、同窓会活動を活発にすることが同時に看護学部・看護学研究科の発展につながることは間違いありません。しかし、「絆」は自然にできるものではなく、築こうとする努力が必要です。そこで、今年是在学中に同窓生であることを意識できるよう、同窓会から3年生に進級祝いを贈るという試みを企画しました。今後もこのような学部生へのはたらきかけを積極的に行っていきたいと考えていますので、これからも同窓会活動へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2010年度活動目標：

同窓会活動をより一層活性化するために、2010年度の活動目標として以下の3つを提案します

- ①同窓会の入会者を増加させる
- ②若い期の同窓生が同窓会活動に参加する
- ③準会員である在校生の同窓会企画への参加を呼びかける

ご挨拶

看護学研究科長 正木 治 恵

今年も千葉大学入学生を桜満開の美しいキャンパスで迎えることができました。

昨年度、本学部が大学院看護学研究科に部局化したことをご報告致しました。さらに今年の3月には、看護学研究科附属看護実践研究指導センターが全国の看護学教育研究共同利用拠点として、文部科学大臣の認定を受けました。これは、本学が看護学教育に関する全国的な活動拠点として名実共に認められたことを意味しています。本学の大学院看護学研究科は、看護学専攻と看護システム管理学専攻という2つの専攻と附属看護実践研究指導センターを有する大規模な研究科です。大学院では、修士・博士課程において看護学を探究するとともに、高度な看護実践能力を有する専門看護師や看護管理者の育成を担っています。大学院では、目的に沿って複数の教育課程を提供していますし、各種の研修や研究プロジェクトも開催しています。現在現場で活躍されている

同窓生の皆様方も、是非ご自身のキャリア形成に本学大学院看護学研究科をご活用下さい。研究能力を身につけたい方、現場の改革のために力をつけたい方、看護学に真剣に向き合いたい方、大学院で学べることはたくさんあります。また、大学院でしか学べないこともたくさんあります。大学院で学ぶことは、つねにより高きものを目指す皆さんに、飛躍的な力をつけていくことと信じています。

昨年度看護学部では、「つなぐ！看護学の知、絆、礎」をコンセプトとした底力宣言を発信しました。そのプロジェクトの一環として、看護学部のロゴマーク入りオリジナルユニフォームを作成しました。ユニフォームのイメージは、知的で清廉、そして歴代ユニフォームのブルーを基調としています。赤に金色の看護学部のロゴマークと青字の英文名がピリッとした印象を与え、千葉大看護学部生としての意識を高めてきています。HP上で公開しておりますので、是非一度ご覧下さい。今後も様々な活動を通して、より一層同窓生の皆様方との絆を強めていきたいと思っております。足繁く、あるいは久々に、看護学部の校舎に足を運んでみて下さい。教員一同、皆様と再会できることを心より願っております。

平成21年度 総会報告

平成21年6月20日（土）15時10分から、看護学研究科講義・実習室にて同窓会総会を開催しました。総会では、会長挨拶の後、運営委員会から20年度より入学書類送付時に入会案内と振込み用紙を同封していること、名簿委員会からは、本年度名簿発行を行うこと、データ管理会社を（株）サラトに変更したこと、たより委員会からは今年度のたよりの発送を行ったこと、また、今後はたより発行をHP上で行う方向で検討していること、企画委員会からは総会前の時間帯に野尻先生を招いての企画の報告、ホームページ委員

からは、入会申込書をダウンロードできるようにしたと報告があり、会計監査について報告され、承認されました。

平成20年度の役員が選出され、平成20年度の活動方針として①準会員である在校生の同窓会企画への参加を呼びかける。②ホームページを充実させる。③千葉大学校友会と連携し、幅広い活動が可能となるような環境づくりをする、が挙げられました。①については、今後は若い卒業生が積極的に参加しやすい企画を検討していきたいと報告され、②については、HPに掲載したい記事等について募集すること、③については、眞嶋副会長より、学外の卒業生同士が連絡を取り合うことができる千葉大学校友会SNS「Curio」への入会の呼びかけがされました（下記入会方法をご参照ください）。

他に、入会システムの変更に伴い、準会員である在校生が卒業見込みがなくなった場合に必要となる退会手続きが検討され、事務を通して漏れないように把握し、納めた同窓会費を返金することが報告されました。

また、岡田会長より、千葉大学校友会から寄付の依頼があり、文面を確認して同窓会会長と連盟で寄付のお願いを送付することが報告されました。

平成21年度の活動予定に対して、平成21年度予算案が審議され、名簿業者の変更による経費が計上されたことが報告され、承認されました。

Curioの入会方法

1. <http://www.chiba-u.ac.jp/sns/registration.html>を開き、『「Curio」入会申込書（正会員用）』より、入会申込書の書式をダウンロードする。
2. 入会申込書に必要な事項を記載し、本人であることを確認できる書類（運転免許証、健康保険証など）のコピーとともに、校友会事務局まで郵送かFAXで送る。
 <送付先> 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 FAX 043-284-2550 千葉大学校友会事務局
3. 校友会事務局で正会員の資格を持っていることを確認したうえで、「Curio」への登録を行う。
4. 登録が完了したら、メールで連絡をする。

資料1 平成21年度決算報告

項目	計	予算	決算	予算との比較
収入の部	計	9,480,842	9,637,542	156,700
1. 会費	計	8,329,342	8,329,342	0
1) 繰越金		7,151,339	7,151,339	0
2) 新入会員終身会費（¥12,000×98名） （学部卒業生79名、修了生19名）		1,176,000	1,176,000	0
3) 利子（定額から一般への移行時 1152+203+342+306）		2,003	2,003	0
2. 名簿委員会	計	1,148,000	1,308,200	160,200
1) 名簿代振込（¥2,800×413）		1,148,000	1,156,400	8,400
2) 寄付		0	151,800	-151,800
3. 企画委員会	計	3,500	0	-3,500
1) 記念誌代		3,500	0	-3,500
支出の部	計	10,792,011	9,637,542	-1,154,469
1. 運営委員会	計	343,000	142,239	-200,761
1) 会議費（交通費・茶菓子）		15,000	7,621	-7,379
2) 郵送費（事務連絡通信費・個人票返送料）		200,000	14,677	-185,323
3) 人件費（総会アルバイト）		10,000	9,500	-500
4) 渉外費（卒業式花束・校友会会費）		100,000	109,811	9,811
5) 雑費		18,000	630	-17,370
2. 企画委員会	計	18,000	20,670	2,670
1) 会議費		7,000	10,670	3,670
2) 記念誌		1,000	0	-1,000
3) 渉外費（謝金）		10,000	10,000	0
4) 雑費		0	0	0
3. 名簿委員会	計	1,730,719	1,196,565	-534,154
1) 名簿作成に伴う出費（郵送費、振込手数料、会議費、保管費、雑費含む）		1,730,719	1,196,565	-534,154
4. たより委員会	計	705,250	681,686	-23,564
1) 印刷費（たより発送を含む）		704,250	680,846	-23,404
2) 雑費		1,000	840	-160
5. ホームページ委員会	計	601,000	42,315	-558,685
1) ホームページ更新費		600,000	42,000	-558,000
2) 会議費		1,000	0	-1,000
3) 雑費		0	315	315
6. 予備費	計	7,394,042	7,554,067	160,025

平成21年度 千葉大学看護学部同窓会の会計監査を実施した結果、収支ともに正当であることを認めます。

資料2 平成22年度予算案

収入の部	計	8,448,567
1. 会費	計	8,431,067
1) 繰越金		7,554,067
2) 新入会員会費（¥12,000×73名分）		876,000
3) 利子（普通預金）		1,000
2. 企画	計	3,500
1) 記念誌代		3,500
3. 名簿委員会	計	14,000
1) 名簿購入見込（¥2,800×5名）		14,000
支出の部	計	8,448,567
1. 運営委員会	計	138,000
1) 会議費		8,000
2) 郵送費		15,000
3) 人件費		10,000
4) 渉外費		100,000
5) 雑費（郵送料・コピー代等）		5,000
2. 企画委員会	計	97,000
1) 会議費・雑費		1,000
2) 記念誌		1,000
3) チラシ印刷代		85,000
3) 渉外費（謝金）		10,000
3. 名簿委員会	計	224,500
1) 個人票返送によるデータ収集などのメンテナンス		84,000
2) 督促はがき（昨年度1,460件）		102,000
3) データ渡し・投下		25,000
4) 雑費（郵送料・コピー代等）		1,500
5) 謝金（個人票確認作業補助¥950×6時間×2名）		12,000
4. たより委員会	計	701,000
1) 印刷費		700,000
2) 雑費		1,000
5. ホームページ委員会	計	47,000
1) ホームページ更新費		45,000
2) 会議費		1,000
3) 雑費		1,000
6. 予備費	計	7,241,067

平成22年度 総会議案

今年度で、千葉大学看護学部同窓会は、正会員に32期卒業生を迎えました。今後ますます同窓会活動が活性化するように、平成22年度の活動方針は「①同窓会の入会者を増加させる②若い期の同窓生が同窓会活動に参加する③準会員である在校生の同窓会企画への参加を呼びかける」を提案します。また、現行の委員会組織を編成しなおし、在校中から同窓会を身近に感じてもらえるような広報や渉外が効果的に行えるように検討していく予定です。

決算報告書は資料1に、予算案は資料2に示します。また、新役員案は、資料3に示しました。評議員会から継続して会長として岡田忍氏を推薦します。また、副会長に引き続き眞嶋朋子氏と大月恵理子氏を推薦します。

今後は、同窓会の管理や内容の充実を検討し、また、母校に足を運んでいただけるような、魅力ある企画を考えたいと思います。

平成22年度 同窓会総会のご案内

盛夏の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年度より新入学時に入会勧誘することとなりました。在学生にとっても若い同窓生にとっても魅力ある同窓会となるため、今まで以上に多くの皆様のご参加、ご意見をお待ちしております。

日時 平成22年7月17日(土)
15時15分頃(同窓会企画終了後)～16時15分

会場 看護学部 第1講義室(2階)
千葉市中央区亥鼻1-8-1
*場所は、看護学部管理棟正面玄関等、各入り口に掲示します。

内容 平成21年度事業報告、決算報告、平成22年度役員選出、活動方針、予算案、名簿委託業者の変更について、ホームページについて、その他
*総会に先立ち、企画委員会主催の座談会があります。

*総会出欠につきまして、同封のはがきにご記入の上、ご返送ください。

<託児の開催について>

同窓会企画および総会開催中(12:30～17:00)、希望があれば、アルバイト学生(看護学部生)による託児を行う予定です。ご希望の方は、同封のはがきに必要事項をご記入の上、ご返送ください。料金は無料ですが、申し込み後にご都合が悪くなられた場合は、前日の7月16日(金)までに下記の係までご連絡ください。なお、当日のおやつやお気に入りの玩具などがあればお持ちください。

係：渡邊(20期)

連絡先：watanabemiwa@faculty.chiba-u.jp

資料3 平成22年度 千葉大学看護学部同窓会 新役員案

会長 岡田 忍(3) 副会長 眞嶋朋子(5)、大月恵理子(6)

理事(評議員)

()は卒業期

1期	伊藤隆子	12期	末永 香 今村美葉	22期	山下亮子 高橋良幸
2期	田中裕二 中村伸枝		河部房子	23期	榎原理恵子 長谷川智子
3期	岡田 忍	13期	江幡智栄 末永由理	24期	山田たづさ 中村 愛
4期	島田尚江	14期	山本育子 石橋みゆき		村山陽子
5期	酒井郁子 本田彰子		斉藤しのぶ	25期	関口明子 守屋奈生
6期	児玉三枝子 遠藤恵子	15期	大塚千春 前原邦江	26期	中村恵美 内海加奈子
	近藤浩子	16期	新井典子 柴田純子	27期	国原健史 遠藤朋子
7期	村瀬智子 亀崎路子	17期	北島美奈 小野真希子	28期	菅野さと美 宮川祐子
8期	湯浅美千代 山倉美典	18期	神津三佳 藤沢陽子	29期	松岡大樹 大島馨子
9期	荻野 雅 横田真由美		永田亜希子	30期	倉田直樹 馬場彩子
10期	荒木暁子 黒田久美子	19期	藤本紀子 前田由希子	31期	屋久祐介 吉田真美
	谷本真理子	20期	長瀬明日香 渡邊美和	32期	戸田由利亜 橋内伸介
11期	嶋澤順子 杉田由加里	21期	菅谷綾子 時田礼子	修了生	本田智子

監事 和住淑子(10) 小川純子(15)

幹事(会計) 岩瀬靖子(21) 大井紅葉(22)

大学院で学んだこと・ 大学院生活の紹介

特集

現場で活躍している同窓生の皆さん、もう一度学びたい、さらに看護を深めたいと考えることはありませんか？ 千葉大学大学院 看護学研究科には「看護学専攻 博士前期課程」「看護学専攻 博士後期課程」「看護システム管理学専攻 修士課程」の3つのコースがあります。それぞれのコースを修了された先輩方に、大学院での学びや大学院生活、また進学のきっかけなどについて伺いました。

出野慶子さん 博士後期課程修了（小児看護学教育研究分野）

私が博士後期課程への進学を考えたのは、勤務していた大学の講師仲間が、社会人として進学する状況があったからです。私の中には①このままの状況で勤務 ②社会人として博士課程に進学 ③退職して進学、の3枚のカードがありました。その頃、大学で修士課程が立ち上がり、院生の教育にかかわる機会がありましたが、私のレベルで大学院教育に携わるのは無理があり、自分の研究能力を高めたいと思いました。①のカードはすぐに手元からなくなり、②と③のカードのどちらを選択するかを迷いましたが、結局③のカードを選びました。千葉大学での研究指導は、長年お世話になっていた教授の先生であり、これからその先生の研究指導が受けられるのは、なんて幸せなことだろう、とわくわくして入学しました。しかし、3年間の院生生活は決して楽しいばかりではなく、論文提出間際はもちろん忙しかったのですが、私にとっては2年の夏以降の半年間がつかったです。思考がネガティブになり、人と一緒に食事ができず、不登校の子どもの気持ちがよくわかった気がしました。心療内科を受診した方がよいかとも考えましたが、大学病院での小児糖尿病外来での看護活動は普通にできていたので、「まだ、大丈夫。」と自分に言い聞かせながら半年が過ぎていました。この間、私を見放さずに引っ張ってくださった教授の先生には本当に感謝しています。研究のデータ収集が始まった頃に、やっと普通に返ることができ、対象者のご自宅にうかがってのデータ収集はとても楽しく、院生の立場でなければ、経験できないような時間ももてました。博士後期課程を修了できたのは、講座の先生方に支えられ、また院生の皆様のピアサポートがあったおかげです。3年間の院生生活で学んだことや体験したことは、今後の私の教育活動に向けて貴重な財産になると思います。

坂本知子さん 博士前期課程修了（基礎看護学教育研究分野）

私は、聖隷学園浜松衛生短期大学看護学科（現 聖隷クリストファー大学）を卒業後、浜松医科大学医学部看護学科の3年次に編入学し、その後、聖路加国際病院に就職して3年間病棟勤務をしました。私が勤務した頃の医療現場は、電子化による標準化や効率化が進められている時期であり、そのような中で私は、患者像を捉え個々の患者に必要な看護を行うということを見失い、悩んでいました。そんな時、千葉大学看護学部を卒業した後輩が、「千葉大学では、坂本さんの悩んでいるようなことをしっかりと教えてくれるので色々学べると思いますよ。」とアドバイスしてくれました。私は後輩の言葉を信じ、もう一度看護について学び直し、現場で抱えていた疑問をもとに研究をしたいと考え、千葉大学大学院への進学を決意しました。

入学前に後輩から、専攻分野が基盤としている看護理論があることを聞いていた私は、「看護理論を自分ひとりで勉強して理解できるだろうか。」と不安に思っていました。しかし、実際には、基礎看護学Ⅱや看護実践方法論といった前期課程の授業、TA（ティーチング・アシスタント）として参加する学部生の授業、講座が主催するゼミや抄読会、学会など、看護理論についての学習を支援してくれる環境が十分に整っていました。これらを通じて、様々な看護理論に触れることができ、看護理論を意識的に適用しながら看護を実践し、分析するということが理解が大変深まりました。

研究、論文作成においては、自分の頭の中にあることが整理されていなかったり、整理されていても論理的に表現することができなかつたりなど、大変苦労しました。しかし私にとっては、それらができないということがわかったことが貴重な収穫でした。このように研究、論文作成では、自分自身の在り方に直面し、客観視しなくてはならないことがたくさんありました。私は、これを成長のチャンスと捉え、自分を支えてくれる人達のサポートを受けながらなんとか乗り越えることができました。

このように、大学院では苦労したことも多々ありましたが、看護理論を学び、それを使って看護実践を分析することを通して、貴重な学びを得ることができました。修了後は現場に戻り、看護師としての仕事を再開しますが、大学院で学んだことで、今後は理論的に考えながら実践していけるのではないかと考えています。皆さんが今、もし何か行き詰まりを感じているなら、それを理論的に考えることで、道が開けてくるかもしれません。千葉大学は、そのような学びを支えてくれる場だと思います。

竹埜弥生さん 博士前期課程修了（老人看護学教育研究分野）

私は看護専門学校を卒業し、13年間の臨床経験の中で糖尿病看護認定看護師の資格を取得したことで、出願資格を得て受験し、この千葉大学大学院看護学研究科に入学することができました。

大学院への進学を目指すようになったのは、認定看護師として活動してからになります。それまでは「忙しい」ことを口実にして自身の看護の振り返りを怠っていましたが、「患者にとって、どのような支援が必要なのか」とずっと頭にこびり付いていたこともあり、糖尿病患者への看護を学び直すために糖尿病看護認定看護師を目指しました。

それからは集中して学び、6ヵ月後臨床現場に戻ると、なんとなく経験として知っていたことが知識として身につくようになり、見ていなかった患者の変化や状況がわかるようになり、患者の持っている力に驚くばかりでした。それと同時に、さらに糖尿病看護や患者への関心が次々と高まり、今まで見えてこなかった臨床現場の課題が見えるようになりました。そして、どのようにこれらの課題に取り組めばいいのかわからなくなることでも多くありました。何とかこの生じた疑問を解決したいと感じ大学院への進学を考え、この千葉大学大学院では、臨床での疑問を大事にしていることを卒業生から聞き、また卒業された認定看護師の先輩方にはバイタリティー溢れる活動や信念があると感じていたことから、千葉大学なら、私の臨床実践からの疑問を大切にしながら解決へ向けて進むことができるのではないかと思います、気がついたときには受験していました。

大学院生活というものは、修了を間近に控えた今にすると、看護や仕事に対する取り組み方を大きく変え、私の看護師人生に彩りを加えた2年間だったと感じます。

1年次の授業では、私の臨床経験に思い当たることばかりで、目から鱗の内容が多く、時には発見、時には内省しながら、違う経緯で入学した異なる背景をもつ仲間たちと楽しいディスカッションに時間が経つのを忘れるほどでした。

本格的に研究が進み分析過程に入ったときには、臨床現場でのケーススタディや病棟ごとの看護研究の経験しかない私は、看護の現象を客観的にみることがなかなかできませんでしたが、まずは、自分なりにやってみますが、自分の限界を感じるのにさほど時間はかからず、指導教官のもとに押し掛けることが続きました。そして夕方には、指導教官の眼が窪み、クマができていく過程に私のせいだと心が痛みましたが、私たち学生が大切にしていることを一緒に大事にし、迷ったときには立ち止まってくれたことで、研究の難しさだけでなく、重要さや楽しさを体感することができたのだと思います。

研究を進めていく過程は辛いことのほうが多かったように今は感じていますが、先生方や先輩、仲間励まされ、そして何よりもデータとして文字になっている対象者の声や病気に悩みながらも向き合う姿勢に支えられ、「なるほど、そうだったのか」と出てきた結果に対象者の真実の声を聞いたとき、ようやく理解することができた感動と、これが私が追いかけてきた長年掴めなかったものなのだと、感激が押し寄せました。

私は退職して大学院へ入学したため、病院勤務ではなかなか経験できなかった高齢者ケア施設での看護など、状況や環境が違う施設での対象者との関わりや看護の経験、研究会の準備、小児1型糖尿病のサマーキャンプの参加ができ、久しぶりの学生生活を満喫しながら楽しみ、学ぶことができました。

私は、臨床経験が長く、臨床現場の煩雑になりかねない業務の多さや忙しさを経験しています。そして、大学院で看護について再度学び、研究の重要さもわかりました。臨床に戻り、実践と研究を「つなげ」ていくことが新たな役割であると考え、今後、大学院で学んだことを患者や臨床に還元しながら、臨床現場を整え、研究を更に発展させていきたいと考えています。

安藤智子さん 看護システム管理学専攻 修士課程修了（地域看護システム管理学）

皆さんこんにちは。私は看護学部を昭和56年に卒業した3期生で、千葉市役所7年、銚子市役所22年になる保健師です。途中、平成14年から3年間、新しく創設された社会人対象の大学院「地域高齢者看護システム管理学」で学び、看護学修士を取得しました。

初めて大学院に行こうと思ったのは、就職して4年目でした。保健師業務は一通り覚えたものの達成感や充実感が得られず、私生活では子育てが始まり、仕事との両立が大変で、「大学院に行けば別の世界が開けるのではないか」という安易な動機でした。結果は不合格。その後、夫の両親との同居により、強力な家事・子育てサポーターを得て、仕事を続けてきましたが、いつも「自分のやっていることは地域看護学としてどうなのか確かめてみたい」という思いを抱いていました。又、保健師としての実践力と研究能力を高めたいとも思い大学院に入学しました。

改革に必要な理論や手法を学びながら、自分の現場の課題を抽出して改革に取り組むプロセスは、当事者として逃げられない苦しさはありましたが、私がやりたかったことそのものでした。当時は高齢者看護システム管理学と病院看護システム管理学があり、高齢者看護の同期は、県立病院の看護部長と三宅島の診療所看護師長でした。保健師の世界しか知らない私には、授業や同期生との交流で知る臨床看護管理の内容は新鮮で、保健師の人材育成や援助の質の管理、保証が不十分であることも痛感しました。

大学院で取り組んだのは、『認知症高齢者のケアの質向上を目指す介護支援専門員とのシステムづくり』でした。ここで身につけたケアシステムづくりの知識と技術は、現在の職場である地域包括支援センターでの「介護予防システム」や「高齢者虐待防止ネットワーク」等に生かされています。保健師20名の人材育成計画にも取り組み始めました。研究能力はまだまだ不十分ですが、1年に1つは学会報告できるようにしたいと思っています。

実践家としていくか、研究者・教育者の道を行くか、人生の岐路で迷うことがあると思います。看護学は実践の科学。実践と研究をつなぐ方法の一つとして、社会人大学院は不可欠で、有意義なところです。いつからでも遅くありません。あなた自身が変わりたいと思ったら、レッツチャレンジ！素晴らしい先生と仲間との出会いが待っています。

田中史子さん 博士前期課程2年生（成人看護学教育研究分野）

私は看護師としての土台を再構築し、その後大学院で高度な看護実践を学びたいと考え千葉大学へ編入学しました。現在は、成人教育研究分野に所属し、がん専門看護師を目指し、日々懸命に勉強しております。

大学に編入学後は、今までの自分が経験した事のない授業ばかりで、日々興奮しワクワクする授業ばかりでした。また、以前から興味があったネパールでの医療チームに看護師としてボランティア活動に参加しました。ネパールでは、日本の医療チームと現地の看護師が協働し、私達は口唇口蓋裂の患者の手術前から退院までの看護を実践しました。口唇口蓋裂という外観や正しい発音ができない事から様々ないじめを体験した子どもたちが、手術後笑顔を取り戻す姿を見て、異文化看護の難しさに直面しながらも、看護師としても学ぶ事も多く、看護の魅力を再確認する事ができました。そして、日本でも千葉県立がんセンターでの園芸療法などのボランティアにも参加しています。大学生活における様々な体験や信頼し尊敬できる仲間との出会いから、看護師としても裾野を広げることができました。大学院への進路を決意する時は非常に悩みましたが、大学生活での学びから看護研究に自ら取り組みながら日々高度な看護実践を提供できる看護師になりたい、いずれは教育の立場にもつきたいと考え、大学院への進学を決意しました。

博士前期課程1年前期は、寝る間も惜しみ、英語の論文を読む日々でした。英語も苦手で看護師経験も浅い私には、辛く厳しい時期でもありました。ですが、成人教育研究分野の同級生の頑張りから刺激を受け励まされ、また多くの先輩や緒先生方に時に厳しく時に優しく指導を受けながらここまで来たのだと、周囲の方々へは日々感謝しています。そして、前期の期間や夏季の集中講義では他分野の院生とともに学ぶ機会も多く、看護師として新しい視点を学ぶ事ができました。授業内容も多様に渡り、自分の所属する分野のゼミ以外にも看護理論、看護管理、看護教育学、病態学、コンサルテーション、看護倫理、フィジカルアセスメント、機能・代謝学、腫瘍ケアコーディネーションなどを受講しました。博士前期課程1年生の後期は、病院実習に行き、研究テーマを絞る時間でした。その中で、多くの自己課題に直面し落ち込む事も多々ありましたが、看護とは何かという問いとしっかり向き合い、今しかできない学びを自分の研究に活かしていきたいと思っています。

大学院へちょっと興味をもった同窓生の皆さま、是非一步を踏み出してください。

山下亮子さん 博士後期課程2年生（成人看護学教育研究分野）

学部時代の私はいろんな科目の追試を受ける不真面目な学生で、当時は大学院進学など全く興味がなく、卒業研究終了後は研究なんてもうこりごりと思っていました。臨床で働いていた時も看護研究の担当はなるべく避けるようにしていたほどでした。

そんな私が大学院進学を考える契機となったのは心臓移植待機患者さん達との出会いでした。患者さんの多くは、心機能の低下や補助人工装着による致命的な合併症出現の可能性に日々不安を抱え、いつ訪れるか分からない移植のチャンスに一縷の望みを託し、制約の多い長期の入院生活を送っていらっしゃいました。患者さんが不安や苦悩を抱えていることは分かるものの、私は看護師としてその不安や苦悩にどのように関わればよいのか、そもそもそれは看護師に解決できることなのか、患者さんが看護師に望んでいることは何なのか分からず、自分がちゃんと「看護」できているのか自信のない毎日でした。そのような経験から、「看護」とは一体どういうことなのか、もう一度きちんと勉強する必要性を感じ大学院への進学を決意しました。

率直に言うと大学院での研究生生活は苦労が沢山あります。臨床での看護業務手順のようなマニュアルや、経年別達成目標と評価基準のような与えられた課題は研究を行う上では与えられません。常に自分で問いを立て、それに対する課題を自分で設定し、試行錯誤して自分なりに答えを導くことは本当に困難で辛い作業です。多くの英論文を時間をかけて読んでも直接的には計画に役立たなかつたりして、効率性や生産性が低いことに落ち込むこともしばしばです。また、私の場合は退職して進学したため安定した収入がなく、質素な生活を送らざるを得ないことも苦労の一つです。

しかし、それでも研究を続けようと思ったのは、研究や大学院生活を通して大きな収穫があったからです。研究を通して患者さんの体験を理解しようとしたときに初めて、それまでの自分が「理想の患者像」を患者さんに押し付け、一方的な価値観で患者さんを捉えていたことに気づきました。対象者にインタビューを行う際にその価値観をいったん捨てることで、今まで見ようとしなかった患者さんの置かれた状況や気持ちが見えてきたのは衝撃的な体験でした。また、患者さんの言動の様々な現象の中からその本質的な意味を見出すのはとてもエキサイティングでした。私の修士の研究テーマは臨床で気になっていた心臓移植待機患者さんを対象とするものではありませんが、研究を通して「看護とは一体どういうことか」を考え抜くことができました（まだまだ道半ばですが）。そして何より、看護を学びたい、よりよい看護を提供したいというモチベーションの高い同級生との出会いは私にとって宝物です。授業でディスカッションから日常の何気ない会話まで、看護観だけでなく人生観についても刺激を受けることが多々ありました。今でも同級生でよく集まりますが、気づけばいつも研究や臨床での問題について熱く議論しあっています。

看護師にとって目の前の患者さんの役に立てることはこの上ない喜びですが、自分のふとした疑問や悩みから生まれた研究成果を実践に還元し、それによって患者さんや他の看護師の役に立てることもまたとても意義があることだと思います。

大学院の詳細はホームページからどうぞ



<http://www.n.chiba-u.ac.jp/index.html>

看護学部同窓会ホームページはこちらです



<http://www.n.chiba-u.ac.jp/dousoukai/index.html>

平成22年度千葉大学大学院看護学研究科説明会案内

— 博士前期・後期課程及び修士課程対象 —

日 時：平成22年6月26日(土) 集合時間12:50, 開催時間13:00

場 所：千葉大学看護学部 講義・実習室(2階)

内 容：研究科の概要と特色, カリキュラムの説明, 大学院生からのメッセージ
教育研究分野・領域別質問コーナー, 大学院生との交流

お問い合わせ・お申込み先：

〒260-8672 千葉市中央区玄鼻1-8-1 看護学部大学院担当

TEL 043-226-2450, FAX 043-226-2382 Eメール：tae5667@office.chiba-u.jp

千葉大学看護学部ホームページ：http://www.n.chiba-u.jp/

参加を希望される方は、平成22年6月21日(月)17:00までに、お名前・ご住所・電話番号・Eメール・決定していれば志望教育研究分野を記載し、「大学院説明会参加希望」と明記の上、ハガキ、FAX, Eメール等でお申込み下さい。

同窓会から新3年生に
ネームホルダーを
贈りました！



退職にあたり 同窓会へのメッセージ

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター 政策・教育開発研究部教授 大室 律子

同窓会の皆様お元気にご活躍のことと存じます。私は、千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター政策・教育開発研究部教授で、今年3月末で定年(千葉大学勤務：平成11年4月から11年間)を迎えます。

その前は文部省(昭和58年～平成11年3月)に16年間勤務いたしました。

そのうち平成4年～平成11年まで初代看護教育専門官として看護系大学・大学院の新設・整備に関りました。

最終講義は、平成22年3月2日に行いました。テーマは「看護学教育高度化に関する私の歩—実践家・行政官・教育者として—」で、千葉大学看護学部創設期の関係者5名のインタビュー調査のまとめを中心に、千葉大学大学院看護学研究科に望むこと、わが国の看護系大学に期待すること等について講義しました。平成20年には千葉大学ベストティチャー賞を受賞し、副賞を頂きましたのでそれを千葉大学看護学部創設期の調査研究費に当てました。インタビュー調査結果はその一部です。

人間は、不思議なもので明確な目標があればそれに向かっていこうとする。「やろうと思えば何でもできる。死にもぐらういでやればどうにかなる」そんな強い思いで、わが国の看護系大学・大学院の設置・整備に関わってきました。平成3年度では看護系大学は11校でしたが、平成21年度では178校になりました。

現在、各大学では、少子化による学生数減少や公的助成の削減、国際的に通用する質の高い教育・研究の実施という二律背反な要求の時代を迎えております。そのために多くの大学では入試等大学改革に懸命の努力をしております。

多様なフィールドでご活躍の同窓の皆様方におかれましては、母校が質の高い教育・研究を目指すために、より一層の御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。さらにお一人お一人のご健勝と更なるご活躍を心よりお祈りいたします。

平成21年度

同窓会企画報告



テーマ：

**「高齢者の健康増進
～ QOL-Promotion ～」**

講師： 野尻 雅美 先生
元千葉大学看護学部教授（保健学）

日時： 平成21年6月20日（土）
13：00～14：00 講演
14：10～15：00 懇談

参加者数： 38名



企画内容：

今回は、「幻の最終講義」でおなじみの、野尻雅美先生を講師にお招きし、前半は先生の研究テーマである、「高齢者の健康論」について語っていただき、後半は先生を囲んで懇談を開催しました。

3期の卒業生から、学部在生学生まで幅広い会員が参加しました。

前半の講演では、野尻先生の熱弁に参加者一同が熱心に聞き入り、後半の懇談では参加者一人ひとりが自己紹介とともに野尻先生との思い出などについて語り合いました。



参加者アンケートより～感想&ご意見～（抜粋）

- ・大変興味深くお聞きしました。自分のテーマのみならず生き方にも関係する内容で、このような機会をうれしく思います。ありがとうございました。
- ・野尻先生のご講義がすばらしかったし、学部・院生の頃をなつかしく思い出しました。もうちょっと交流の時間があれば…と思いました。
- ・野尻先生の講義をこのようなかたちで聞けるのは、同窓生の特権だと思います。このようなことをもっとアピールしていけたらと思います。
- ・10年（以上？）ぶりに野尻先生のお話を聞いて、なつかしく、また当時の講義をあまり覚えておらず申し訳ないなあと感じておりました。QOLの捉え方、Spiritualの捉え方について、非常に「目からうろこ」のところもあり、興味深かったです。
- ・保健学で健康や予防活動について現在勉強をしているところですが、スピリチュアリティやQOLについてとても考えさせられました。自分はまだまだたくさんを学習しなければならないと思います。貴重なご講義をありがとうございました。

企画に参加してくださった方、当日の運営にご協力いただきました皆さまに、改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。次回の企画でも、たくさんの方々のご来場をお待ちしています。

平成20年度企画委員一同

委員長：伊藤隆子（1期）、副委員長：時田礼子（21期）、委員：村瀬智子（7期）、前田由希子（19期）

今明かされる…

平成22年度

千葉大学看護学部 同窓会企画

看護学部創設の秘密

～なぜ千葉大学に創設されたのか？～



日本の看護教育を創り上げてきた

大室律子 先生

を講師にお招きします。

大室先生プロフィール

文部科学省高等教育局医学教育課において、計16年間行政官として看護教育行政に携わり、看護系大学の新・増設、専門学校卒業生の大学編入学制度の導入、科学研究費補助金細目における看護学の分化・昇格等、数多くの制度的な懸案事項を解決してきました。

平成11年4月より千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センター教員となられ、いつもあたたかい眼差しに溢れていました。

平成21年3月をもち、惜しまれながら定年退官されました。

日時：平成22年7月17日（土）

13：30～15：00

会場：千葉大学看護学部 第一講義室

35年前に一体何があったのか!? 看護学部設立前から設立後にかけて、キーとなった人々へのインタビューを通して、その当時を語っていただきます。
あなたも時代の語りべになりませんか？

皆さまのご来場を、お待ちしております♪



Produced by 企画委員

委員長：石橋みゆき（14期）、副委員長：時田礼子（21期）、委員：村瀬智子（7期）、山下亮子（22期）

最近になって、マンション購入斡旋業者などから同窓生の自宅に勧誘の電話がかかってくるという苦情が寄せられています。このような業者は電話番号を同窓会名簿を通して知ったということです。

同窓会では、皆さまから集めた個人情報は厳重に保管し、また名簿も信頼のおける業者に作成を依頼しており、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。

業者が名簿をどのようにして入手したのかは特定できませんが、可能性としては、同窓生が名簿業者等に売った、名簿を廃棄する際に裁断（シュレッダー）していなかったために他者の手に渡った、勝手にコピーされたなどが考えられます。

名簿は、卒業生の動向を把握する上で貴重な資料でもあり、同窓生同士のつながりを図る大切なものです。名簿の悪用による被害を防ぐこと、そして、今後も皆さま方のご協力を得て名簿を作成していくために、名簿が他人の手に渡らないよう管理と廃棄する際にはシュレッダーをかけるなど十分にご注意頂きますようお願いいたします。

個人票の返送と記入について

個人票の返送のお願い

個人票はすべての会員の方が返送してください。

個人票は登録いただいているデータを印刷してお手元にお届けいたしております。個人票は、同窓会からのあらゆる連絡（たよりの発行、名簿の発送など）のための住所のもととなります。さらに、皆さまから返送された個人票の情報を元に、看護学部卒業生の現在の就業状況を統計的に把握し、「千葉大学看護学部要覧」に掲載しています。これは、看護学部卒業生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料となっております。住所変更や名簿購入希望の有無にかかわらず、必ず返送して下さるようお願い申し上げます。また、すでに住所変更をはがきで通知されている方も、必ず返送いただきますようお願いいたします。

個人票は、返信用の「確認はがき」に現在登録してある情報が印字されております。変更・訂正がある場合は、印字の下の空白部分にご記入いただき、ご返送いただくようになりました。

個人票記入の手引き

- ☆ ご自分の個人票データについて、変更のある場合は、訂正欄の空白部分に修正内容をご記入ください。
- ☆ 勤務形態、設置主体、職種、職位は、連絡カードのコード表（コード表は、下記にもあります）から番号を選択し数字を記入してください。該当するものがない場合には、具体的に記してください。
- ☆ 「就労の有無」については、現在就業している方は「有」、就業していない方は「無」とご記入ください。
- ☆ 勤務を続けたまま学生をされている方（科目等履修も含む）は、勤務先と学校名（在学中）の両方を「勤務先」の欄にご記入ください。
- ☆ 最終学歴は、学位を修得済みの内容のみ、お書きください。
- ☆ 近況報告について、ご記入いただいてもたよりへの掲載を希望されない方は、右下のチェック欄にチェックしてください。
- ☆ 確認はがきを切り取り、同封の個人情報保護シールを上貼して情報をカバーし、ご返送ください。



[コード表]

勤務形態	: 1. 正職員 2. 臨時職員（非常勤、パートタイマーなど） 3. 休暇・休業中
設置主体	: 1. 国立 2. 都道府県 3. 市町村 4. 公益団体 5. 学校法人 6. 医療法人 7. 個人 8. 会社
職 種	: 1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. 看護教育職 6. 研究職 7. 一般職(看護職以外)
職 位	: 1. 非管理職：一般看護職員、一般専任教員、助教、助手 など 2. 中間管理職：婦長、主任、市町村等の係長、助教授、講師 など 3. 管理職：看護部長、副看護部長、教務主任、市町村等の課長、教授 など

個人票返送の締め切り

平成22年6月末日までに返送してください。なお、個人票発送後に住所変更された場合は、随時お知らせください。

※総会に出席される方は、6月18日までに返送ください。

平成22年度 千葉大学大学院看護学研究科 教員紹介

専攻	講座	教育研究分野等	教 授	准教授	講 師	助 教	技術職員 特任教員
看護学 専攻	基礎看護学	基礎看護学	山本 利江		齊藤しのぶ	丸茂美智子 藤田 文子 廣田 和人	
		看護教育学	舟島なをみ	中山登志子			菊地 佳子
		機能・代謝学	山田 重行	田中 裕二		藤田 水穂	
		病 態 学	岡田 忍			鈴木 明子	西尾 淳子
	母子看護学	母性看護学	森 恵美	坂上 明子		森田亜希子 小澤 治美 前川 智子	がんプロ (特任講師) 田崎 牧子
		小児看護学	中村 伸枝		佐藤 奈保	三瀬 尚子 内海加奈子 宮川祐子 (代替助手)	
		成人・老人看護学	成人看護学	眞嶋 朋子	増島麻里子		
	老人看護学		正木 治恵	谷本真理子		田所 良之 高橋 良幸 河井 伸子	
	精神看護学		岩崎 弥生	近藤 浩子		小宮 浩美 浦尾 悠子	
	地域看護学	地域看護学	宮崎美砂子	佐藤 紀子		岩瀬 靖子 飯野 理恵 渡邊 礼子	
		訪問看護学	諏訪さゆり		石橋みゆき	島村 敦子	
		保 健 学	北池 正		山本 武志		
	看護システム管理学専攻	看護システム管理学	病院看護学 システム管理学	手島 恵	永野みどり		
地域看護学 システム管理学			吉本 照子	緒方 泰子			
ケア施設看護学 システム管理学			酒井 郁子			飯田貴映子	
研究指導センター 附属看護実践		ケア開発研究部	野地 有子	黒田久美子	今村恵美子		センタープロジェクト (特任准教授) 河部 房子 (特任助教) 松田 直正 (特任研究員) 張 平平
		政策・教育開発研究部		和住 淑子	赤沼 智子		
		認定看護教育課程 (乳がん看護分野)	(特任講師) 森田公美子 (特任助教) 金澤麻衣子				

* 下線は正会員